

# 白山判官堂湿原のトンボ類を中心とする動物相

上馬 康 生 石川県白山自然保護センター  
佐川 貴 久 石川県白山自然保護センター

## A PRELIMINARY REPORT OF ODONATA AND SUCH LIEK FAUNAS OF HANGANDO MOOR IN MT. HAKUSAN

Yasuo UEUMA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

Takahisha SAGAWA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

### はじめに

高地の湿原では寒冷な気候のため植物の遺骸があまり腐らずに残り、土壌や表面の水分の栄養が乏しく長期にわたって遷移が進みにくい場所があり、そのようなところでは稀少な動植物の生息・生育地となっていることがある。白山地域にはこのような湿原はあまり知られていない。

石川県白山市白峰の明谷川上流に湿原があることは地元では言い伝えられてきた。これを松村など(1980)は明谷湿原と記して、周辺部を含めて植物調査を詳しく行い報告している。しかし湿原の詳しい場所は明記されておらず、またその後の報告もないことから、この湿原の場所を確認することと、その現況を把握するとともにトンボ類を中心とする動物相の予備調査を行ったので報告する。なお、昆虫類の同定をしていただいた石川県ふれあい昆虫館の富沢 章氏に、また地名について教示いただいた白山ろく民俗資料館の山口一男氏に感謝の意を表します。

### 調査場所と調査方法

湿原の場所は空中写真と地形図から位置を明らかにしたが、石川・福井県境の大長山と取立山を結ぶ稜線のほぼ中間位置の北方約1kmの標高約1,400mのところである(図1)。この付近は白山市白峰では地名を判官堂と称して古くから知られており、登山地図にも明記されているので(上馬・梅, 1981, 2007), この名称をとりこの湿原を判官堂湿原と呼

ぶことにする。明谷川は白山市白峰風嵐で合流している手取川の一支流であり、その流域の植生はブ

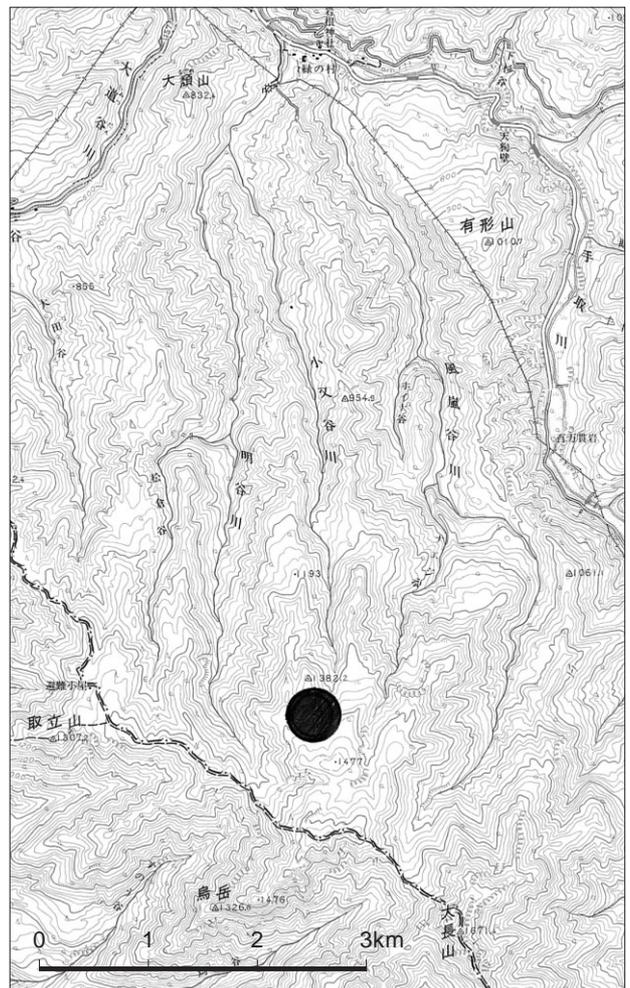


図1 調査地

国土地理院発行5万分の1地形図越前勝山を使用

表1 判官堂湿原で記録された動物

昆虫綱 Insecta	トンボ目 Odonata	イトトンボ科 Agrionidae	キイトトンボ <i>Ceriagrion melanurum</i> Selys
		ヤンマ科 Aeschnidae	エゾイトトンボ <i>Coenagrion lanceolatum</i> (Selys)
		エゾトンボ科 Corduliidae	ルリボシヤンマ <i>Aeschna juncea</i> (Linnaeus)
		トンボ科 Libellulidae	カラカネトンボ <i>Cordulia aenea amurensis</i> Selys
			カオジロトンボ <i>Leucorrhinia dubia orientalis</i> Selys
			アキアカネ <i>Sympetrum frequens</i> (Selys)
	コウチュウ目 Coleoptera	ゲンゴロウ科 Dytiscidae	ハイイロゲンゴロウ <i>Eretes sticticus</i> (Linnaeus)
		ガムシ科 Hydrophilidae	キベリヒラタガムシ <i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)
両生綱 Amphibia	サンショウウオ目 Caudata	イモリ科 Salamandridae	アカハライモリ <i>Cynops pyrrhogaster</i> (Boie)
	カエル目 Salientia	アオガエル科 Rhacophoridae	モリアオガエル <i>Rhacophorus arboreus</i> (Okada et Kawano)
鳥綱 Aves	アマツバメ目 Apodiformes	アマツバメ科 Apodidae	アマツバメ <i>Apus pacificus</i> (Latham)
	スズメ目 Passeriformes	ミソサザイ科 Troglodytidae	ミソサザイ <i>Troglodytes fumigatus</i> Temminck
		ウグイス科 Sylviidae	ウグイス <i>Cettia diphone</i> (Kittlitz)
		シジュウカラ科 Paridae	ヒガラ <i>Parus ater</i> Linnaeus
		カラス科 Corvidae	ホシガラス <i>Nucifraga caryocatactes</i> (Linnaeus)

調査日：2007年7月19日 昆虫類は標本あり(上馬康生採集, 富沢 章同定, 石川県ふれあい昆虫館収蔵)

ナ - ミズナラ群落とスギ植林が多く, 他にチシマザサ - ブナ群団, 自然低木群落などである。トンボ類は捕虫網を用いて, また水生の昆虫類は編目 1 ~ 2 mm のタモ網を用いて採集した。ただし湿原への往復に時間を要し採集に十分な時間をかけられず, 目視できたもののみに限られた。両生類や鳥類については目視および声で確認できたものを記録した。

### 結果とまとめ

調査は2007年7月19日に行った。まず明谷川の林道終点まで入り, そこから左岸に付けられた深い草地と低木の茂る歩道を行き, 標高1,020m地点で川に下りて右岸に渡り, 右岸の沢を登り尾根を越えて小又谷川の支流に下り, これを溯り標高約1,400m付近で沢を離れて林に入り, 上空が開けているところをさがして目的の湿原に到達した。湿原は沢の東西に2か所あり, 東方の湿原(写真1)には池塘が3か所, 西方の湿原(写真2)には池塘が1か所と周辺にも小さな水溜りがあった。東方の池塘に比べて

西方の池塘の方が水面の面積は広く水深もより深かった。どちらの湿原も池塘の周囲はミズゴケ類で被われており, 草地にはキンコウカの花が多く, 他にモウセンゴケ, オオコメツツジ, ササユリなどが花を付けておりコバイケイソウは実を付けていた。松村ら(前出)はこの湿原を高層湿原としているが, ミズゴケ類の生育や泥炭は存在しているものの, 地形的に中央部が高まっているかどうかなど判断できず, いずれの湿原に分類されるかは今後の調査を待ちたい。湿原周辺の林は最大樹高5 ~ 8mのダケカンバ, ブナ, オオシラビソがあり, 低木層にマルバマンサク, ミネカエデ, オオカメノキなどがみられた。なお東方の湿原のさらに東側の一段下がったところにもほぼ同じ面積大の平坦地があったが, 草原でコバイケイソウの実が多く見られ池塘はなかった。

2か所の湿原で確認できた動物は表1のようであった。西方の湿原ではカオジロトンボ(20±)が多く, そのうち交尾個体も5組以上いた(写真3)。



写真1 判官堂湿原(東方)



写真2 判官堂湿原(西方)



写真3 カオジロトンボ

他にカオジロトンボを追い払うカラカネトンボ(1)、池塘の植物に止まるエゾイトトンボ(3+)とルリボシヤンマと推定される蛹殻(5+)、上空にアキアカネ(3+)を確認した。水中にはアカハライモリ(5+)がみられ、ハイイロゲンゴロウとキベリヒラタガムシを採集した。池塘周辺でモリアオガエルの鳴き声を3か所で、その新しい卵塊が地上に2か所みられた。鳥は湿原周辺の林でウグイス、ヒガラ、ホシガラス、ミソサザイを、上空でアマツバメを記録した。東方の湿原では、トンボ類ではカオジロトンボ(10+)が多く、キイトトンボ(1)、ルリボシヤンマの死体、アカハライモリ、モリアオガエルの成体とその卵塊が地上に1か所みられた。

今回の確認種の中で、カラカネトンボは石川県内では金沢市の医王山と日尾池に記録があり(石川むしの会・百万石蝶談会, 1998)、白山では赤兎山の池

塘, 福井県大野市刈込池と下小池で記録はあるが(福井県自然環境保全調査研究会, 1999)、石川県内の白山地域では標本として初めてとなる。またカオジロトンボは上馬が1990年8月8日に白山の清浄ヶ原の池塘で写真撮影したもの(富沢, 2001)と、赤兎山の池塘で記録があるが(福井県自然環境保全調査研究会, 前出)、標本としては石川県で初めてのものであり、白山地域で今回のように多くの個体が見つかったことも初めてであり注目に値する。これら2種の分布地としては今回の場所が国内での西限にあたると思われる。なお昆虫類の標本は石川県ふれあい昆虫館に収蔵されている。白山地域の高地の湿原や池塘における昆虫類の調査はほとんど行われておらず、今後より詳しい調査を実施する予定である。

#### 文 献

- 福井県自然環境保全調査研究会(1999) 福井県のすぐれた自然(動物編), 452pp. 福井県県民生活部自然保護課.  
石川むしの会・百万石蝶談会(1998) 石川の自然環境シリーズ石川県の昆虫, 54. 石川県環境安全部自然保護課.  
松村敬二・小林則夫・北川博正・乾 昭治(1980) 事例研究2. 湿原の教材化. 「自然観察の手引」作成のための基礎的研究, 12-46. 勝山理科教育の会.  
富沢 章(2001) 白山におけるカオジロトンボの撮影記録. とっくりばち, 68, 27-28. 石川むしの会.  
上馬康生・梅 典雅(1981) エアリアマップ山と高原地図 白山. 昭文社.  
上馬康生・梅 典雅(2007) 山と高原地図 白山荒島岳2007年版. 昭文社.